

シンポジウム 7：家族全体を「見る」在宅医療

演題名	家庭医療のグループ診療を行う立場から 家族全体を「見る」在宅医療について
-----	--------------------------------------

概要

米国での家庭医療研修を受ける際に、家族志向のケアの重要性に気づき、地域での家庭医療を実践するコアに家族志向のケアをおきながら奈義町での診療を 13 年間行ってきた。家庭医療後期研修を提供する側として、多くの若い後期研修医を抱えながら、電子カルテの家族図を駆使して、グループ診療での家族志向のケアを心がけている。訪問診療においても、人口 6000 人の町の診療は家族ぐるみのかかりつけ医としての機能を発揮することができ、介護者である家族もまた自分たちの患者である状況で、家族志向のケアを提供している。

訪問診療での醍醐味は家族が在宅チームの一員となり、困難な状況と一緒に向き合い、在宅療養を希望する患者の最期の時と一緒に過ごすことができる点である。家族自身もチームの一部になった看取りの瞬間はとても一体感のある経験となる。老老介護を遠隔の子供たちが支える構造の中で、介護者の健康管理にも気を付けながら日々の訪問診療に向き合っている。こうしたグループ診療を行う家庭医療の診療所での家族全体を「見る」在宅医療について報告できればと思う。